夕刊 磐城新聞
十一月十五日發行
發行所 磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）

權爺イ（上）

寒風生

權爺さんの家は、つッかい棒で腐れた片方の柱を支へた、鳥居をくゞり樹齢不詳高さと枝ぶりを矜るがまゝに伸ばした公孫樹の傍を小徑に入り、木下闇を一丁程行つた先の竹籔と桑の木立に埋された爺さん一人には遙かに廣すぎる茅葺の軒先に何處となく落着きの見られる家です

その日も

『よう來なさつた』

と爺さんは白い眉を猫の髭の様にピクピクさせながら溢顔に太い皺を澤山に寄せて迎へて異れた

『それに凭れては崩れますちや、まあお上り、それは腐れて居りましてなはゝゝゝッ』

太い皺が又躍る

遠慮して居ては却つて老人の機嫌を損ずではないかと思はれて

『は、上がらして頂きます！』

私は柴折戸を離れて椽先から座敷に上つた

靴が沓脱に落ちた、老人は底の釘の石に彈ねるのを聽いて居るやうであつた

太い人差指で鼻の下をなすりながら爺さんは居爐裡に薪をくべ始めた

『今日は此方から話をしますちや、面白くもないが聞いてからぢや、よいか惡いかは、はゝゝゝッ』

いつもの通り豆柿の干した乾ブドーで人遊びをする

『まあお上げ』

器のまゝ私の膝下に突進して來た

『辭ん儀なしに頂きます』

私は爺さんの眸を見ながらこの前のこの老いたる人の言葉を思ひ出しながらいつた、紅い焔がパッと立つた

『サア話だ、詠もないに賣つては惡いかなはゝゝゝッ』

『どうぞ――』

私は急いで

『お賴します、此の次の分まで一所に注文しておきますよ』

自分の顔からこの老人のやうな人なつこさをにじみ出し妻い氣持に驅られた

『この郷に清助ちう若者が居たんぢや、といつても私の子供の時分ぢやつたが』

爺さんは自製の番茶を茶碗に移しながらいふ、白髮の人のなはのうに聞い、ちうはてふと耳に來、わたしはわしと思はれた

『清さんちではのロウショク（蠟燭）を製つとつたんぢや、あんたも知つとるぢやらうがあれはウルシの實を搗いてな蒸して蠟を搾り取るんぢやそれを油で煉つての先に紙捻を造つとつて心にしそれを掌で塗りかけ、乾して又た塗りかけ、何篇もやつて出けるんぢや、蕋の薹に流し込む筒掛けとか云ふ奴もあるさうぢやが』

私達にはとても澁くて飲めぬ黑味を帶びた番茶を權爺は香ばしいとゴクリ、咽喉を鳴らした

愛讀者懸賞抽籤

十、十一、十二月三ヶ月分の本紙購讀料領收書と引替に抽籤券一枚を呈上。以上三ヶ月分の前納には新舊讀者を問はず抽籤券即時呈上

一、抽籤　明春一月四日
一、發表　同六日本紙上

賞品
テーブルゲーム　一面宛
一等特大形（一名）　二等大形（二名）
三等中形（三名）

趣味

高瀨勝男

トラックが砂塵をあげて通る、一荷落ちた、目撃して役から、のう――のう――と声掛けをやる（謠曲の呼びかけは靜かに出て段々と張るこつ）時に遲し得意の聲をはり上げてるまに五丁十町トラックは行つて居る

謠曲は斯くの如く大平な趣味だ。世に趣味を解せざる男女あり、起居殺風景五十年、六十年、阿呆の如く人己の墓穴を掘るのみ

謠曲に限らざるも趣味の類、かずかず解せずして朴念仁と名付く、趣味に生きる、人生に宜敷彩賦すべきだ

右にも動けば左にも動く左右相束、人、人の環境に趣味を解す、此處に一意勵する姿勇ましくも旺々しいが敵陣に矢折れ力つきて誰か惡童の頭柿を盜んだ、自由と奔放を想はんやだ今盜人にならず、己の生死の境靜かに一句ありと死地に尚悠々と趣味を味ふ、天晴心、褒むべし褒むべし心の勇者だ

平素の徒然、微妙なる感動、己を見る。無理に頑固を守して、人の多藝を嗤ふ食はず味を兎角するものでこの獲一夫一婦を人倫の識するも、財あつて妾を蓄、權あつて斡大不遜、心寒し行爲に愧ぢざるの覺

趣味は嚙む程味があるものだ、豐臣秀吉は誇大妄想狂でした、併し秀吉は天下の實權を握つた、かうなれば妄想狂にあらざる趣味に出て人情の機微あり、樂みつつ、彼我を己の意に含ます

偶々趣味に集つて隔意なし、秀吉の高遠もないが、道に會へば朋友、知己、先輩と敬親、其命ある皆趣味の德。自殺、人殺は文化が進むにつれ珍い事でもなくなつたが、姦淫して、人、牛馬の春情を醜となす趣味に五十年、百年罵詈も陷策も難事、春朗、くん風の如しだ

間違は矯むべきだ、無理せず、態を成す

勝男、謠を始む、きのふ今日もう二年近い、茶をたて客を招ずる迄の自信はつかないが謠して聊かその呼吸法を會得し、健康にも雄、人に勸めるにも好もし、夕に仇し男を抜し、晨におくる幾月長恨をか、つ女、武夫あつて弓箭を語り、僧出て昔日の有樣を思ふ、綴文又格別

秋宵座して朗する氣格、機に臨み、敏變に應じ悟する禪定がある樣だ

一つ趣味あつて繁きに煩はず、二つ趣味出て淸境常日の心掛、かくて生活の本義を知るべしだ、犬のかけ合ひに與ざかるより、なんでもいい、爽かに趣味をもてよ（勝男のノートより）

硝子色の夕暮

佐久間利秋

樹の枝の蔭に
美しいもやもやしたもの
がどうしてあのやうにも萎びた聲をたてるぞ
仕合はせはすこし疲れ
淡い灯がかなしみの奥にともる
ああ　世界よ
何の音も聞かせて異れるな
ほの白い悔いの中で
この上何の穿鑿が要らう
ただとほい處を思ふばかりだ
草履を穿いて杖ついて
硝子色のかはいい日暮れよ
道は絶えてる
夜露が降りる
ほのぼのとした村落の向ふ
草深い季節の涯に
ああ　わたしにはよくわかる
今、みどり兒が生まれるところ
やさしい言葉には果てがない
柴の花がひらきはじめる
氣色して
どこまでもどこまでもひろがつてゐる
硝子色のかはいい夕暮

〇

月代に鳴のさわぐや草の沼　靑紘

わが父はまこと死にしか入口に、ぬぎならべあるはきものゝ數　小田觀螢

社會の今日

11月16日

△スエズ運河開通（一、八六九）△川崎富士紡爭議超人煙突上より示威をなす（昭和五）△滿洲事變聯盟第三次會議を巴里に開く（同六）△天皇陛下には午前大阪工業奬勵館並に貿易館に行幸遊ばされ午後は城東練兵場で近畿二府五縣の地方團體を御親閲あらせらる（同七）

講談　幕末神風組（53）

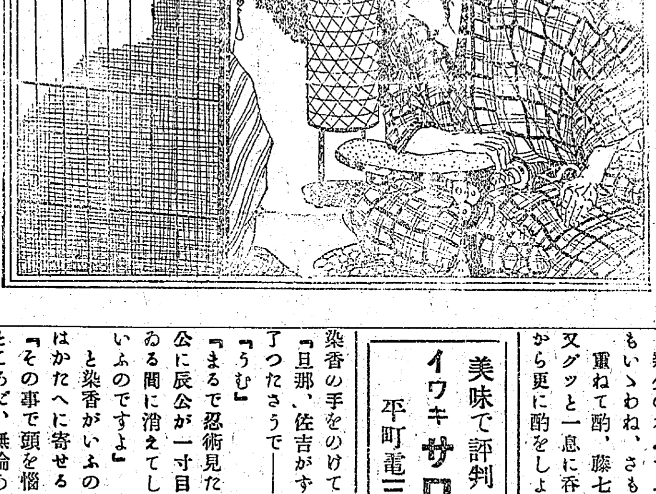
土生太郎作　高根秀浩畫

染香（三）

『親分おかへんなさい』

居すまひを直しながら染香

『飛んだお樂しみのところをお邪魔しやす』



云ふ氣もないのに、つい藤七の口からそんな皮肉が洩れる

『いや、御苦勞ちやつた、で、首尾は―？』

御木本は苦笑を嚙み殺しながら聞く

『それが……』

『どうしたの、淺野の野郎をふん縛つたの』

云ひよどんでゐる藤七をせき立てるやうに染香

『それが……』

同じやうな事を口ごもる藤七、御木本の思惑を考へ乍ら語をつゞけた

『……兎に角、あの通り手強い奴、計略通り捕繩ですつかりいためつけたところを棒で叩き伏せて了ふ、こつちの寸法通りうまく行きやしたが、どうして嗅ぎつけたものか八丁堀の奴等が七八十人駈けつけて來やがつて、もう滅茶苦茶、慘々なものでした、しかし大した負傷人のなかつたのがせめてもです』

『さうか』

と、御木本は只一言

『さう、それは惜しいことをしましたわね』

口では殘念さうにいふもの、染香はホッ！とした樣子であつた

『全く、からめて叩き伏せたのですからねえ、もうすつかりこつちのものといふところへ飛んだ邪魔が入りやあがつて……』

『そりや口惜しかつたでせう、だけど仕方がないわ、そりや親方の故ぢやないんですものね、まあ喉うるほしにお一つ……』

染香は盃洗から盃を一つすくふて藤七にさした

『へ、どうも！』

滿々と酌がれたのをさも〳〵美味さうにグッと一息に

『親分の呑みつぷりは何時もいゝわね、さもう一つ』

重ねて酌、藤七はそれを又グッと一息に呑み干してから更に酌をしようとする染香の手をのけて

『旦那、佐吉がずらかつて了つたさうで――』

『うむ』

『まるで忍術見たいに、新公に辰公が一寸目を離してゐる間に消えてしまつたといふのですよ』

と染香がいふのを御木本はかたへに寄せるやうに

『その事で頭を惱ましてるところだ、無論あの嚴重な繩を一人で拔けることはかなはぬことだ、これは誰かゞ拔け導くものがあつて……』

其處で御木本の眼が鋭く染香に注がれた、藤七はその視線を逃がさなかつた。彼の眼もキラり、と染香に注がれる

『……な、兎に角こつちの油斷が惡かつたのだが……逃げたものは仕方がない、これからの方法を講じなければ……』

云ひさして御木本は盃を手にした、染香は千鳥をとると默つたまゝ酌をした

『冷えたな、染香、熱いのを持つて來てくれ』

御木本は一口のむとかういつて代りを求めた

『それでだ、佐吉に手引きしたものがなければならぬ

酒の替りをとりに立つた染香の後姿をギロリ、凄くにらみ乍ら御木本

『それにしては餘りに圖々しい女では……』

『シイッ！しつかりした證據がある譯ではない、滅多な事は云はぬやうに、ま一寸耳をかせ』

御木本は藤七の耳に口を寄せると何事か私語いた。藤七はそれを一々得たり顏でうなづいた

美味で評判の
イワキサロン
平町電三五二

平町田町
井坂醫院
電話五五九番

特許防虫防縮加工純毛メリヤス
ナフタリン及樟腦ノイラヌ絶對虫ノ喰ハヌ毛シヤツ　上下各3圓
カ洗タクソノ他ニ絶對縮マヌ毛シヤツ　上下各2圓80錢
ツルヤ　平四　電一四〇

旭屋一六銀行
當分夜間九時迄取扱
平町三丁目
旭屋商店
電話四二五番

生徒募集
磐城女子洋裁專門學院
奥様方の爲め特に隨意科が設けられてあります。
毎日定期に通學の出來ない方々の爲の回數券制度……
入學毎月初日
（此の際入學者は隨時入學を許可す）
ミシン無料貸與（材料貸與の方法あり）
平町白銀町十五番地
（詳細…學則郵券二錢）

難波醫院
內科　小兒科
醫學博士　難波睦
平町新川端櫻堤
電五〇二
（…入院隨時…）
看護婦募集

電話新設參七七番
高級塗下駄　流行草履　雨傘其他
平町五丁目四（釜屋隣り）
田口はき物店
田口辰雄

新型腕時計……
各種
コロンビヤ　ビクター　特約店
新譜レコード入荷
店員數名募集
（電一九五番へ）
金光堂時計店
五丁目

淋藥界の最高權威
無効返金（二日間服効なき時は癈藥引替に全部返金す）
別府淋藥
一週間…赤箱―金五圓　黑箱―金參圓
世界の名湯別府温泉で名高い。岩里家の家傳祕藥は男女血ウミ、コシケ、淋病消渇に奇績的効果ありどんな頑固な痼疾でも短時日に根治が出來且つ再發することなく注射や他藥で治らぬ諸賢は最後の藥として迷はず……名藥別府淋藥の御服用に依り幸福を得られん事を希望致します。
九州別府市鶴乃園　岩里天然堂

別府皮膚藥　金三十錢　金五十錢
天下の名湯別府温泉のラヂウム含有の精に各病醫院及最高學府の處方劑集め大成せる皮膚病特効藥であります、たむし、いんきん、みつむし、なます、しらくも等其他皮膚病に卓効あり。
代理店　平町三丁目北裏通り　渡邊いと
（特約店募集）

新案特許：馬島式
ダッチベッサリー
唯一つの產兒制限器具！！
馬島式ダッチベッサリーの決定的優秀點
一、素人が自ら手輕に使用される點
一、絶對的に効果を有する點
一、自他共に使用感を覺ねない點
一、永く使ねて經濟的な點
一、生理的に害のない點
一日も早く速にこのよき健全なる…產兒制限器具の普及を望んで止みません。
多產に惱む人、病弱の人、其他凡ゆる階級に於て產兒制限を希望する人は、速かに本品を御使用あらんことを……。
少く生んで強く育てよ！眞の母性愛に目覺めよ！
福島縣平町田町　松月堂向ひ
醫療藥品　衛生材料　工業藥品　有名賣藥
販賣店　阿部藥舗

內外建築材　建具材
阿部材木店
磐城國平町（公園下）
電話四九四番

眼科專門
吉田眼科病院
院長　醫學士　吉田安雄　吉田久雄
平町紺屋町　電六八番

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋　和洋銅物
釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九番　九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は㊇の生命なり

僅か數名採用の處へ 希望者既に三百名突破
鐵道入りの極端な試驗地獄

今春三月執行以來杜絶えて居た水鐵管内鐵道傭人採用試驗は今年第二回として近日水戸、平の兩所に於て執行される事になり目下願書受付け中であるが採用五、六名の處に昨十四日迄の希望者三百餘名の多數に上りそゞろに極端な試驗地獄を聯想させて居るが替え玉その他諸種の弊害に鑑み今回から半身脱帽の寫眞(名刺版)を履歷書身体檢査證(甲種)と共に提出させる事になつた

大持てのスポーツマン
不景氣知らずの態

大人のみか小學卒業生迄深刻な就職難に喘いで居る昨今不景氣風何處吹くの態で納まり返つて居る階級にスポーツマンがある、即ち來春卒業する磐中の某野球選手及平商の短距離選手兩君の如きは既に地方の某大炭鑛から口が掛り夫々校長から渡りをつけられつゝあるの狀態である

海軍部内に輝く磐中出身の三星
四人目の閣下會田少將と高木長良、鈴木神通兩艦長

海軍軍醫大佐永戸村出身磐中第一回生會田常次氏の少將昇進は既報の通りであるが愈々今十五日を以て左記磐中關係者(佐官以上)の分と共に正式發表された

横須賀海軍工廠醫務部長軍醫大佐 會田常次
任海軍々醫少將

横須賀鎭守府附海軍大學潜水艇戰術教官海軍大佐 高木武雄
長良(二等巡洋艦五、一七〇)艦長
(大野村磐中第十回生)

舞鶴防備隊司令附海軍大佐 鈴木幸三
神通(二等巡洋艦五、一九五)艦長
(東白河郡宮本村磐中第五回生)

因に磐中出身の勅任官は內務省下關土木出張所長技師金古久次氏(平町第一回)氏を最先とし元陸軍參與官比佐昌平氏(湯本町第二回)及び過般大阪神戸兩鐵道改良事務所長を退官した會田氏と同じ箕輪永戸組合小學校に學んだ齊藤飾氏(舊姓高蔵箕輪村第一回)と會田氏が都合四人目の閣下であり尚ほ遠からず勅任たるべく目されてゐる人に公州地方法院長判事長谷部光雄氏(舊姓綿引平町第五回)と門司税關事務官監視部長松崎

忍び寄る歳末のかげ 早くも救貧計劃
消防の慈善演藝に次いで助成會でも調査開始

年末の極貧者救濟に就ては早くも昨報の如く平消防組が一と肌拔ぐ事になつたが共濟事業助成會でも例年の如く同樣計劃する處あり昨十四日の區長會議で各區長に對しその調査方を依賴したが昨年の歳末同情週間に於ける同會の救助數は十八戸五十餘名で今年も大体同數位と見られて居るが鎌田仲間町方部の細民街には女の手一つで大勢の子供を養つて居るのなどや大事な稼ぎ手が長患ひして居るなど哀れな家庭もありこれら貧苦のドン底にある人達も救ひの手により幾分緩和さる模樣である

百四十萬を見越す 平局の賀狀洪水
例年通り臨時增員計劃

平局の年賀郵便は例年の如く南洋鮮滿其他遠隔地は來月五日より其他內地の分は例年の如く來月廿日から取扱ひを開始するので今月下旬濱三郡郵便局長會議を開き諸種打合せをなすが景氣の幾分好轉から昨年より二割增加の百三十五萬七千二百通位を見越す同局では分類一日二十名位宛十日間延二百五十名、配達十二名位一週間延百二十名を臨時增員する豫定で來月に入つてから希望者の考査を行ふと

第二校に郷土室
第三校へ分離收容と共に新陣容を整ふ

平第二校では郷土室の充實を圖るため既報の如く全職員が地理、歷史、公民の各方面に分擔して研究を續けて居るが愈々來新學期より第一、第二兩校から九教室增設の第三小學校へ生徒を分離收容するのでこれに伴ふ本教室を使用して從來狹隘の爲設けてなかつた家事作法、唱歌、理科の各特別室にあてる外一室を郷土室とし地方の産物や地勢の大鳥瞰室を設ける事になつたと

電話料金滯納處分
來廿日の期限後は財産差押斷行

通話停止二十三口と云ふ從來にない不成績を極めた平局の第三期電話使用料は目下尚ほ七口の未納あり十日督促狀を出したが期限の二十日迄納入に至らぬ向には國税徴收法を適用財産差押へを斷行する事になつた

通話區域擴張 平局では左の如く市外通話區域の擴張をなした

(十一日)山梨縣河口、一の宮兩局(五十五錢)(十六日)茨城縣高部局(二十五錢)同縣那珂郡檜澤(二十錢)

磐女弓道會 磐女職員對生徒の弓道試合は昨十四日午後二時から同校弓場で開き十八對十で職員捷つ

平區提議案
小野監督書記出福

福島地方裁判所管內監督書記並供託局長會議は來る廿二、三の兩日福島地方裁判所に於て開かれるので平區よりは小野監督書記が出席するが同所提出協議題は代理人選任の特別委任なき訴訟代理人は强制執行の立會並辨濟受領に付代理人の選任をなし得るや外十三件であると

平青意見發表 平青年團修養部では從來毎月一回名士の修養講話會を開いて居たが前回に於ける撰拔分團員の意見發表が成績極めて良好なりしに鑑み今後も引續きこの方針で進む事になつた

防火と避難作業
非常時に處する 磐中、平商、高女の假設

磐中、平商では講演後高學年の部隊編成をなし重要書類の持ち出し作業をなし磐女校でも同樣奉安庫防火や其他發火に際しての避難作業をなし終つて平消防組頭井上茂作氏の講演があつた

ポスター展 磐女校及平第三校では今十五日の防火デーに際し同校生徒より懸賞附で防火ポスターを募集審査の上近く展覽會を開く事になつた

患者を搬出 磐炭の出火想定

磐炭ではビラ、ポスターを掲出、カマド檢査を行ひ同鑛附屬病院では消防、青年團員の應援を得て入院患者の搬出をなし午後七時からは三分間消燈する

本校危險に瀕す
第一小學兒童が けふ擬摸火災演習

平第一校では今朝會の際防火、赤十字兩デーの校長訓話あり午前九時から商業學校小便室より發火して今盛んに炎上しつゝあり東南の風向なので今や本校に延燒せんとすの想定の下に高等科生より成る少年消防組の非常召集をなしポンプ其他各部所について火災そのまゝの作業をなし終つて篠山校長の講話があつた

神宮出場の選手慰勞會
目下關係者準備中

磐中關係者關內、阿部、吉田、新田目の諸氏及平商資本校友會長は來る廿日頃過般の神宮出場選手小川、川隅(磐中)安島、木田(平商)の四君をマルトモホールに招き慰勞を兼ねて回顧會を催すべく目下準備を進めて居る

桑園改良八十町
三年計劃順調に進む

蠶業取締平支所では昨年度から三年計劃で管內の桑園改植並整理を行つて居るが昨年度整理反別は六十四町四段三畝、改植十四町七段九畝で改植には反當り十五圓、整理には七圓五十錢の縣補助があり目下極力養蠶家を督勵改良に努めて居ると

磐女校友雜誌發行回數增加 磐女校では從來年刊校友雜誌を發行して居たが今後はより以上生徒達の研究發表に資する爲學期毎に發行すべく目下酒井教諭等が誌名其他考案中であると

青訓豫備演習 石城郡聯合青年團秋季發火演習は愈々來る廿二三の兩日植田方部を中心として催されるので平青訓では來

怒濤の渦物凄さ 鰐ケ淵へ投身自殺?
四倉町の仙台高工生

四倉町字新町新藤專門馬信太郎氏弟仙台高等工業學校生門馬雄三郎君(二二)は病氣の爲去る十二日歸郷靜養中昨夜家出の儘歸宅せず心當りを搜索中であつたが久の濱町波立の鰐ケ淵へ投身自殺する旨の遺書あるを今朝發見、大騒ぎとなり早速同海岸へ驅けつけた處附近に本人の下駄を發見したので多分飛び込んだものと一家悲歎にくれてゐる、原因は過度の勉强から神經衰弱に陥つた結果でないかと

箕輪道路紛糾解決
小林土木所長の調停で愈々近日中に起工決定

箕輪村では四千三百圓の八年度匡救事業たる大字高野字東作西作間の道路改修が縣の設計によると却て村民の不利益を招來すると從來村民大會等を開いて紛糾中であつたが昨十四日小林平土木監督所長が出張圓滿調停し愈々近く起工する事になつた

五訓導出席。 新家平第三小田植田、齋田錦、遠藤江名、佐藤大浦の五訓導は明十六日から三日間福師附屬小學校で開かれる縣下小學校教員修身科研究會に出席した

佐藤蠶絲課長來平 縣下視察の縣蠶絲課長佐藤壯太氏は今十五日平着午後零時五十六分で久の濱から來平、蠶業取締所其他各所を視察した

第一研究教授。 平第一校四學年國語科研究教授は今十五日午前十一時から行ひ了つて講評があつた

小學校 第二、三の兩校では全職員を奉安庫消防、非常持ち出し、救護の各班に分擔避難演習、終つて津田校長の講話があつた

營林署山神祭。 平營林署では今十五日上小川村戸渡宮行事務所に於て山神祭を執行、夜は映畫會を行つた

磐女茶の湯會。 磐女校三、四年生百二十名より成る茶道課外受敎生は來る二十日作法室に職員を招き茶の湯會を催す

三小學打合會 來る廿八

日第一校で

四倉通信

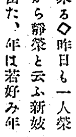
消防檢閲。 四倉町消防組では今十五午前九時から秋季檢閲を施行した

美化作業。 四倉小學校では昨十四日兒童により町內の美化作業を行つた

施餓鬼。 出漁の際蛸船から海中に轉落行方不明となつた四倉町鈴木三之助所有稻荷丸船長佐藤庄治(六二)の死体は引續き捜査中であるが昨十四日午前九時より本町海岸で施餓鬼を施行した

坑內で重傷。 湯本町八仙居住運搬夫本島勝利(三〇)は一昨十三日午後五時頃第五坑內で炭車乘り廻し中轉落し頭部に重傷し手當ての効無く昨十四日死亡した

艶罪黒白



◇年末が近づくに從つて出入りが多くなつて來るのは質草と藝者だ即ちストックの倉拂ひと云つた鹽梅で餘り殿方の購買心が唆らない品物になるとドン〳〵他方面へでん勤させられて了ふ一寸ミコあるのになると之亦遠慮なく引つこ拔いて持つて來る◇昨日も一人榮家から靜榮と云ふ新妓が出た、年は若好み年增食ひの何れにも向くハタチと云ふ處、湖面底下に愛嬌をつかして田舎町の猪苗代から新興躍進の平町へ轉向したんだそうな◇次に思ひ切つてグロな處を一つ。X丁目附近にエロ王城をかまへて居る獨身の某職業婦人さんは相手の寫生迄飲んでしまふと云ふ物凄さなんだそうである◇中學生の小便から取つた精分を注しやする若返り法が發見された今日とは云へこれはチト荒療治過ぎるとの評判なり◇消防組主催の慈善演藝大會が愈々中二日の目前に迫つたので平町の藝者と云ふ藝者は便所へ行くにもご飯を食べるにも『ヤンレヨイ〳〵』と許り石城音頭の稽古に熱中して居るとは商賣大事の心掛け褒めて遣はすものなり…。

職業紹介欄

求人 女中―五圓位 配達―委細面談 女中―六、七圓 工場雜役―十五六歳高卒面談 豆腐賣子―三十歳位賣上歩合

求職 採炭夫―四十一歳高卒 農夫―二十六歳 配達―三十四歳 雜夫―三十七歳 出前持―二十二歳

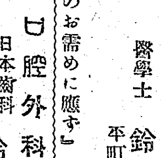
滿洲子供漫畫
山木次郎書 (8)

一、お母さん『遊びに行く前にその絲を卷いてしまひなさい』

二、花子『つまらないな』太郎『ア、いゝことがある』

三、と、絲卷きをコマの樣にまはして!

四、太郎『ハイお母さん』お母さん『マアよい子だこと』



諸判定應需 東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神宮

▲一白の人 浮か〳〵と人の言葉に乘りて迷惑損失あり▲二黒の人 金錢上に難み多く進退に困難な不安の日▲三碧の人 人より一倍の骨を折りても功無きに終る日▲四緑の人 計畫通り何事も進展すべし但し急進を戒む▲五黄の人 新規の事業を企つれば辛勞多きを増すのみ▲六白の人 萬事進んで功多き日起業開店吉證書類注意▲七赤の人 物事のまとまり好く利益を生ずる方針成立す▲八白の人 他より相談を受け百事進みて利益を生ず吉▲九紫の人 旺運にして相談掛合事意の如く行はるべし

舊九月二十九日	木曜	丙戌	先勝	閉	角宿	新十一月十六日

廣告

安齋外科醫院 平町田町 電四七五番

上田醫院 平南町 院長 上田耕作 電一二九

產科 婦人科 外科 藥局 院長 木村寅次郎 醫學博士 內木宗八 藥劑師 立番彌一 入院隨意 病室完備 平町新川町十九番地 木村病院 電話一六四番

恐ろしい疫痢の流行期!! ○毎年六月始めより十月と申します。○死亡率統計百人中六十五人以上として居ります。まづ豫防に經口免疫の北里研究所製造疫痢內服ワクチンを ○價格 幼兒一人分 三十錢 大人一人分 五十錢 (文献進呈) 特約店 西村屋藥局 平二・電3

高久病院 平町田町 (電話五三一番) 醫學士 高久 忠 新潟醫學士 赤羽 清 藥劑士 佐竹 內科 外科 小兒科 花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科

屋根材の大王(日の出太陽印)便利瓦 耐久力優二十ヶ年以上 壹坪葺上八十錢內外 日本建築紙工株式會社 磐城代理店

銘木 ベニヤ板 天井板 建具材 內外木材 建築材料ノ御用命ハ是非當店へ。 ㊎織田材木商店 平町字紺屋町四〇 電話 四六〇番

耳鼻咽喉科專門 醫學士 鈴木正男 平町田町(電話五八番) 藤田女學校前

『入院のお需めに應ず』 齒科口腔外科 日本齒科醫學士 鈴木喜政 內郷村高坂 磐炭病院前 鈴木醫院